学校・家庭・地域をつなぐ

らいん

子どもを育む活動情報紙

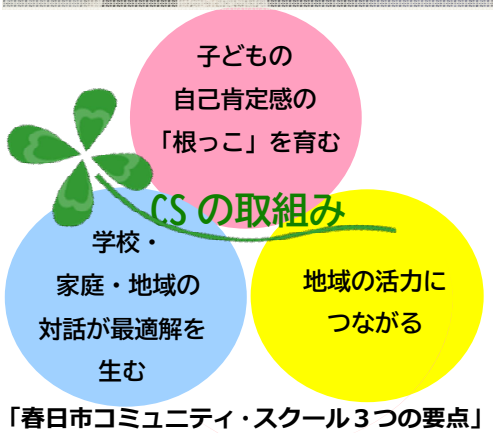
No. 126

2025.9 月

コミュニティ・スクール 20 周年✨

コミュニティ・スクール（ＣＳ）とは、「学校運営協議会を設置している学校」のことです。
ＣＳは、子どもの生きる力を育むとともに、大人たちが活躍する場にもなっています。
市では、これまでのＣＳの成果を検証した結果を踏まえ、春日市のＣＳの方向性を改めて整理した「春日市コミュニティ・スクール３つの要点」を策定しました。

写真：保護者・地域が参加する伝えよう！愛（あいさつ運動）（須玖小学校）



「春日市コミュニティ・スクール３つの要点」

子どもたちの好奇心を刺激し、向上心を高めたり、その内面に、安心（信頼できる人と場所）と受容（受け入れてくれる、良いところを認めてくれる）の感覚が育まれたりすると、自己肯定感が自然と高まります。

上記写真のような、登下校で保護者や地域の方と子どもで交わされるあいさつも、子どもたちに安心と受容の感覚をもたらし自己肯定感の根っこを育むことにつながると考えられます。

地域の輪（和）、人と人との輪（和）を**つなぐ**という意味を込めて名づけた“らいん”。市内各地区の活動を地域教育課職員が取材し、発信します。

春日市教育委員会地域教育課　Tel : 092-981-0101　Fax : 092-584-1153

市ウェブサイト

／３つの要点＼

春日中校区

春日小学校「絵本作ろう！おにぎり握ろう！」

▲おにぎりを握る児童の様子

７月２２日（火）、春日小学校心力育成部(※1)による夏休みイベントがあり９３名が参加しました。

かすがっ子おはなし会による絵本の読み聞かせ後、子どもたちは絵本作りやしおり作りに取り組みました。その間、調理室では心力育成部を中心に、おにぎりや具材の準備がすすめられました。

おにぎりに使用した米は２０㎏。１人二個ずつのうちの一つを子どもたちが握りました。そっと嬉しそうに握る表情が印象的でした。

※1 学校がめざす子ども像を達成するための実働組織部会(教員・PTA・地域で構成)のひとつ

春日東中校区

谷っ子アンビシャス広場　「万華鏡づくり」

▲万華鏡を作っている様子

谷っ子アンビシャス広場では、毎週火曜日の放課後、大谷小学校多目的ホールで、けん玉やダーツ、バドミントンなどの自由遊びが行われています。

６月１７日（火）は、特別企画「万華鏡づくり」を行い、４０名の子どもが参加しました。トイレットペーパーの芯など身近な材料を使って、地域のボランティアの皆さんに教わりながら、色とりどりの万華鏡を作り上げました。

「わあ、きれい！」「わたしのも見て！」とあちこちで歓声があがっていました。

春日西中校区

上白水アンビシャス広場　「アートクラブ」

▲オーロラの絵と一緒に記念撮影(左上は講師の柴田さん)

上白水アンビシャス広場では、毎月第３金曜日に「アートクラブ」の活動が行われています。

水溶性クレヨン型の画材を使い、毎回テーマを変えて、楽しく絵を描いています。

７月のテーマは「オーロラ」。様々な色を自由に重ねて指で伸ばし、幻想的な光のカーテンを描いていきます。それぞれ個性豊かな「オーロラ」が完成し、みんなで記念撮影です。

持ち帰った作品は、いつも家族に「上手だね！」と褒めてもらえます。それが嬉しくて、子どもたちはますます絵が好きになっています。

春日南中校区　惣利地区公民館　「そうり夏きらら」

▲射的を楽しむ様子

７月１３日（日）、大規模修繕工事を終えた惣利地区公民館にて、「そうり夏きらら」（記念式典および新小・中学一年生を祝う会）が開催されました。

記念式典では、紅白の龍が飾られた舞台の前で、地域の方によるお祝いの歌や、惣利好いとう会による獅子舞太鼓が披露されました。

当日はバザーも開かれ、中学生が企画した射的やわたがしのコーナーには、子どもたちの長い行列ができるほどのにぎわいを見せていました。

春日野中校区　春日原南地区公民館　「プログラミング講座」

▲キャラクターを作成している様子

春日原南地区公民館で、７月３０日（水）、８月６日（水）の２日間をかけて「夏休みプログラミング短期講座」が開かれました。今回のテーマは、「デザインと生成ＡＩで物語を作ろう」。子どもたちは専門の講師から、プログラミング、３次元コンピュータグラフィックスや画像生成ＡＩの基本を学びました。

１日目は、物語に登場するキャラクター作りを体験。表情、髪型、衣装にこだわったオリジナルのキャラクターが完成しました。２日目は、生成ＡＩを使ってゲームの背景作りなどを体験しました。

春日北中校区　春日北小三者連携カリキュラム「地域の人と一緒に踊ろう」（※2）

▲ふるさと音頭を踊っている様子

春日北小学校の４年生が、地域の方から「ふるさと音頭」の振り付けや由来、踊りに込められた願いなどを教えてもらいました。

ふるさと音頭は、春日市市制５周年の１９７７年に誕生しました。その歌詞には春夏秋冬、季節ごとの春日市の良さが歌われており、現在でも、地区祭りなどで大事に踊り伝えられています。

踊りを習った子どもたちからは「春日市の歴史を知ることができて嬉しかった」「皆と一緒にふるさと音頭を踊って楽しかった」という感想が聞かれました。

※2　三者連携カリキュラム ： 地域や保護者と連携･協働した授業

地域コーディネーターの活動を紹介します！

春日野小学校地域コーディネーター
牧山（まきやま）　円（まどか）さん、白水（しろうず）　開（ひらく）さんに
お話を伺いました

　春日野小学校は、保護者や地域の方がボランティアやゲストティーチャーとして全学年に関わってくださっています。私たち地域コーディネーターの主な役割は、その際の連絡調整や活動の支援・情報発信です。子どもたちのために行われる授業や活動ですが、関わる大人にも楽しさややりがいを感じてもらいたいと思っています。そのために、先生方との打ち合わせや、ゲストティーチャー・保護者ボランティアへの連絡や説明を丁寧に行うよう心がけています。

　また、保護者同士のつながりづくりのため『おやカフェ』を開催しています。気軽に誰かと話せる場、気になることを相談できる場、ボランティアの合間にほっと一息。そんな時間になるよう開催時間などを工夫しています。

　今後も春日野小に関わるみなさんが『学校って楽しい！このまちが好き！』と思えるように、学校・家庭・地域のかけはしを続けていきたいと思っています。

▲野菜の苗植え

▲白水さんと牧山さん

▲おやカフェ

▲地域のことを学ぶ授業

▲保護者ボランティアによる丸付け
（ぐんぐんタイム）

きらり☆春日の人　白水池地区自治会　和田本（わだもと）　純子（じゅんこ）さん

▲育成部のお母さん的存在の和田本さん

　和田本さんは、平成２２年に地区の班長になったことがきっかけで育成部の役員を務められ、以来自治会育成部のよき理解者として長年にわたり地域の活動を支えています。

　春日市に引っ越してきてから自治会の活動を知り、市と協働できるしくみは良いまちづくりだと感じたという和田本さん。「白水池は小さな地域だが、自治会加入の有無にかかわらず、どの子も行事に参加できるようになっている」「自分のためではなく、人のために何かできることは贅沢な生き方」と穏やかにお話しくださいました。